

茨城県県北農林事務所
常陸大宮地域農業改良普及センター

〒319-2255 茨城県常陸大宮市野中町3083-2
TEL. 0295-53-0116 FAX. 0295-53-1077
(大子駐在) 〒319-3361 茨城県久慈郡大子町頃藤6690-1
TEL. 0295-74-0461 FAX. 0295-74-0769
ホームページ『常陸大宮地域農業改良普及センター』検索

普及センターだより

▶収穫祭の様子（生産者及び関係機関）



有機栽培米の取り組みについて



▲生産者の藤田正美氏

令和五年度からは、市内内の小中学校一五校の学校給食用米（約三七七）を令和九年度まで



普及センターでは、農業の振興を図るため、付加価値を高めた農産物生産の取組として関係機関との連携等により、有機農業を推進しています。

常陸大宮市では令和四年三月に「有機農業推進計画」を策定、有機農業の推進に力を入れており、令和四年度は（株）JA常陸アグリサポートが露地野菜で初めて有機栽培に取り組み、学校給食や直売所に供給しました。

に完全オーガニック化にするため、栽培面積を一haまで拡大する目標を掲げて推進を始め、一年目の今年度は（株）JA常陸アグリサポートおよび藤田正美氏の二名が、久慈川沿いの鷹巣地区で初めて有機栽培米の生産に三・九ha取り組みました。

有機栽培は化学合成農薬、化学合成肥料を使用せずに栽培するため、雑草対策が重要となります。栃木県の民間稲作研究所に指導に入ってもらい、普及センターは生育調査、収穫調査、酸化還元電位の測定、水位センサー（farno）の設置等の実証ほを設置し安定生産に向けた技術確立のためのデータ収集を行いました。

雑草対策は三回代かきと深水管理がポイントとなります。丁寧な代かきと、七cm以上の深水管理を行い、除草のために田んぼに入ることなく雑草はほぼ抑制できました。また、畦畔の除草管理の徹底でカメムシ被害もほとんどなく収穫を迎えることができ、収穫量は目標の九tを大きく上回り、一六・七tとなりました。九月二〇日には収穫祭を開催し、常陸大宮市長やJA常陸組合長が自らコンバインを操作して収穫しました。収穫された有機栽培米は十一月六日に奉告祭を行ったあとと学校給食に提供されました。

普及センターでは、有機栽培米の安定生産のため今後も継続して支援します。

基腐病・と思つたら
かな？
ご連絡を！



茨城県では令和三年に、サツマイモ基腐病の発生が確認されました。発生すると、被害が拡大するおそれがあるため、侵入防止と早期発見が重要です。また、サツマイモの大産地である本県では、特に発生を警戒すべき病害であることから、家庭菜園を含む全ての方に守って頂く「遵守事項」を定めました。

遵守事項は①県が実施する調査に協力する。②発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、ほ場外に持ち出す。③発生ほ場では二年間サツマイモを作付けしない。④発生ほ場から種芋を採取しない。などになりますので、ご理解とご協力をお願いします。

貯蔵中のイモや育苗期・生育期に本病の症状(左写真・農研機構提供)がないかよく観察し、疑わしい症状が見られたら、普及センターまでご連絡ください。



▶イモの腐敗

▶苗基部の黒変

J A常陸大子町りんご部会
高品質なりんご作りの取組

大子町は県内有数の観光直売型のりんご産地です。主力品種の「ふじ」を中心に、蜜入りの多い「こうとく」やオリジナル品種の「奥久慈宝紅」等特色ある品種を揃え高品質安定生産と組織的なPR活動を行っています。部会では除草作業の省力化のため、りんご園を自動で草刈りするロボット草刈機の導入が進んでいます。

Aりんご園ではロボット草刈機導入により、一〇aあたり除草作業時間を九五%削減し(二〇時間→一時間)、高品質なりんご作りに直結する作業に、より集中することが出来るようになりました。

普及センターは、Aりんご園の事例をもとに普及資料を作成する等して積極的に導入を推進し、令和五年度は計一三台が新たに導入されました。

普及センターでは、お客さまを惹きつける魅力ある産地として発展するよう、これからも支援していきます。



▲ロボット草刈機稼働時の様子

新任青年農業者の紹介

茨城県では、地域農業の振興や担い手育成に活躍が期待される優れた農業者を農業三士として県知事が認定しています。

令和五年度は、管内から青年農業者一名が認定されました。

新任 青年農業者
菊池 晋介(きくちしんすけ)さん



菊池氏はりんごを生産・販売する追分りんご園の後継者です。

就農四年目ですが、経営発展を目指し、積極的に規模拡大されています。近年は自園で収穫した「こうとく」等の高品質果実を「追分蜜輝」(商標登録済)として都内有名ホテルや既存顧客へ販売し、ブランド化に取り組んでいます。また、就農当初からりんご青年部に所属し、技術研鑽活動やPR活動にも積極的に参加するなど、既に中心的な存在として活躍中です。地域の若手リーダーとして、今後のさらなる活躍が期待されます。

ハナモモを植えてみませんか？

J A常陸奥久慈支部会(常陸大宮市・大子町・常陸太田市)では、「奥久慈の花桃」として需要が十分にある、ハナモモ栽培に取り組む方を募集しています。

ハナモモは桃の節句である三月三日のひなまつりが需要期で、出荷調整を行う二月が繁忙期ですが、春々秋は病害虫防除や草刈り、芽摘み程度と、作業が比較的少ない品目です。

ハナモモの出荷量を増やしていくため、定年帰農、新規就農、複合経営の生産者を歓迎します。ご興味のある方は、普及センターまでご連絡ください。



ホームページにも情報がありませんか？



▲普及センターHP



▲農業いばらきHP

